

「山上の変貌」

2014年09月24日

マルコによる福音書9章2節～13節。六日の後、イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、どう言えばいいのか、分からなかった。弟子たちは非常に恐れていたのである。すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」弟子たちは急いで辺りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが彼らと一緒におられた。一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない」と弟子たちに命じられた。彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。そして、イエスに、「なぜ、律法学者は、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか」と尋ねた。イエスは言われた。「確かに、まずエリヤが来て、すべてを元どおりにする。それなら、人の子は苦しみを重ね、辱めを受けると聖書に書いてあるのはなぜか。しかし、言うておく。エリヤは来たが、彼について聖書に書いてあるように、人々は好きなようにあしらったのである。」

上記の出来事は「山上の変貌」と言われている。主イエスはペトロ、ヤコブ、ヨハネの弟子たち三人を連れて、高い山に登られた。何か重要なことを告げる時、いつも、この三人に知らせている。山上で、主イエスの姿は変わり、服は真っ白に輝いた。そこへ、エリヤとモーセが現れ、主イエスと語り合っている。三人は驚き、恐れた。動転したペトロは、何を言っているかわからず、「先生、素晴らしいことです。あなたとエリヤとモーセのために仮小屋を三つ建てましょう」と口走った。すると、雲が彼らを覆い、雲の中から「これはわたしの愛する子、これに聞け」という声がした。弟子たちが見回した瞬間、主イエスだけがそこにおられた。

この「山上の変貌」はどんなことだったのであろうか。事実としての出来事は分からない。ただ、分かることはある。マルコ福音書の著者は、主イエスの脇に預言者を代表するエリヤと律法を代表するモーセを登場させ、預言と律法を成就した主イエスの姿を描き出したのである。その結論が「これはわたしの愛する子、これに聞け」という言葉である。主イエスは神の愛する子である。神は御心を子に託した。「これに聞け」というメッセージを伝えている。

その後、十字架の死から復活するまでは、山で見たことを話してならないと口止めされた。三人は主イエスの言葉に混乱した。彼らはなぜ、律法学者たちはメシアの到来の前にエリヤが遣わされると言っているのかと問うた。エリヤは既に来たが、人々は好きなようにあしらったと、エリヤは殉教した洗礼者ヨハネであると暗に答えている。

「山上の変貌」は預言と律法の成就者としての主イエスを示し、神の子への信従を促した記述であろう。ここから、十字架の死へと急展開して行く。